

2018年4月 今月のトピック

# 『2017年度投信ランキング～速報～』

アナリスト 和田 年弘

2018年4月13日作成

2017年度の投信の運用成績ランキング～速報～です。単年度、中期(3年)、長期(5年)の収益率、リスクの他、収益の安定性やドロダウ(最大下落率)についてもまとめてみました。

## 『ポイント』

- 2017年度1年間の収益率トップは「小型株ファンド」でした。ベストテンは、そのすべてが実質的に国内株式型となり、中でも成長株(中小型株を含む)を主要投資対象とするファンドが8本を占めました。
- 直近3年で見ると10位に中国株式ファンドが食い込んだものの、1位から9位までは国内株式型が占め、2017年度1年間と同様、国内株式型が優位となりました。
- 直近5年で見てもこの傾向は変わらず、成長株(中小型株を含む)優位という、ここ数年間の傾向を反映した結果となりました。
- カテゴリ別(直近5年)でも国内株式型が1位となり、収益率では2位の外国株式に大きな差をつけました。リスクは高めでしたが、収益率が高かったことで効率性も高くなりました。複合資産は、収益率こそ上位1/4に届かなかったものの、リスク、安定性等他の全項目で上位1/4となり、昨年に引き続きバランスのとれた結果を残しました。

## ■ファンドランキング:2017年度(1)

2017年度の収益率ベストテンは以下のファンドです。

計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信、マネーファンド等を除いた2,930本で比較しています。

ファンド名	運用会社	カテゴリ	残高 (百万円)	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドローダウン (注1)
小型株ファンド	明治安田	国内株式	30,146	79.65%	23.23%	3.43	-5.44%
日興グローイング・ベンチャーファンド	日興	国内株式	40,739	79.03%	22.66%	3.49	-5.59%
SBI小型成長株ファンド(ジェイクル)	SBI	国内株式	28,904	75.60%	21.35%	3.54	-4.44%
女性活躍応援ファンド	大和	国内株式	24,779	61.38%	12.14%	5.06	-1.06%
MHAM日本成長株オープン	AM-One	国内株式	24,304	58.06%	9.53%	6.09	-1.08%
MHAM新興成長株オープン	AM-One	国内株式	41,624	56.23%	11.11%	5.06	-1.97%
楽天日本株4.3倍ブル	楽天	その他	31,216	56.15%	50.23%	1.12	-20.59%
ダイワ新興企業株ファンド	大和	国内株式	8,041	55.60%	13.61%	4.08	-1.51%
マネックス・日本成長株F	AM-One	国内株式	4,065	55.47%	11.44%	4.85	-1.68%
SBI日本小型成長株選抜ファンド(センバツ)	SBI	国内株式	5,179	54.29%	17.94%	3.03	-3.94%

(注1)下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2)月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

ベストテンに国内株式型が9本入っていますが、残り1本も日本株式の上昇分にレバレッジをかけたブル型ファンドであり、事実上ベストテンはすべて国内株式型と言えます。主要投資対象別にみると、ほとんどが小型株または成長株タイプです。一般的に、成長株と呼ばれる銘柄群には中小型株が占める割合が高いため、実質的には成長株を主要投資対象とするファンドがベストテンの大部分を占めたと言えるでしょう。直近1年間の成長株優位の相場を如実に反映した結果となりました。

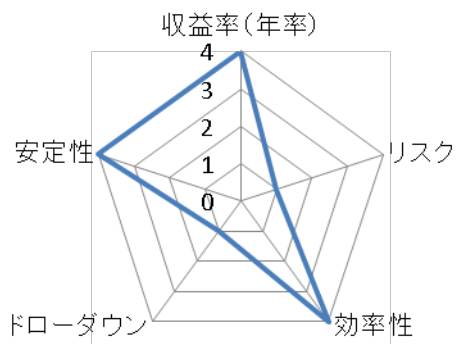
## ■ファンドランキング:2017年度(2)

パフォーマンスだけでランキングすると、ハイリスク・ハイリターンの方ばかりになりがちです。ここでは、以下の5項目のポイントから、バランスの取れたファンドかどうかを見ていきます。

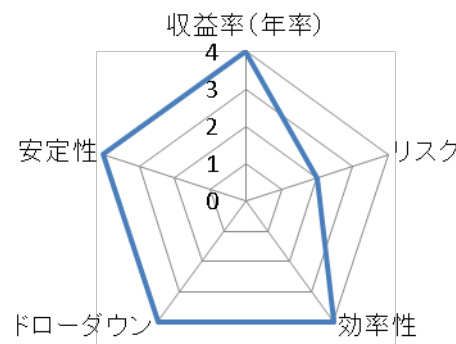
- 収益率 : 月次の収益率を足し合わせて年率換算しました。期末/期初で算出される値とは若干異なります
- リスク : 月次収益率の標準偏差(年率)で、一般的なリスク指標です。
- 効率性 : 収益率/リスクで算出。単位当たりのリスクでどれだけ効率的に収益を上げたかを示します。
- ドロウダウン: 下落幅が最も大きかった月の収益率です。
- 安定性 : 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合を示し、高いほど安定的とします。

以下のレーダーチャートは、上記5項目について四分位を示したものです。すべて国内株式型であることから、運用スタイルの違いで比較しました。主要投資対象が小型株であるグループと、成長株であるグループから、それぞれ1本を抜き出したところ、どちらも、収益率、安定性ともに優れていますが、小型株は1ヵ月間の最大下落率が大きかったのに対して、成長株は最大下落率が小さくなっており、後者の方が相対的にバランスがとれた結果を残したと言えます。

### 小型株ファンド



### MHAM日本成長株オープン



## ■ファンドランキング:中期(直近3年間)(1)

2017年度のみでは直近1年間の状況しかわかりませんので、中期的な視点から直近3年度を見てみましょう。収益率ベストテンは以下のファンドです。

計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信、マネーファンド等を除いた2,641本で比較しています。

ファンド名	運用会社	カテゴリ	残高 (百万円)	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドローダウン (注1)	安定性 (注2)
JPMジャパン・テクノロジー・ファンド	JPモルガン	国内株式	3,169	45.90%	22.26%	2.06	-9.63%	69%
DIAM新興市場日本株ファンド	AM-One	国内株式	15,244	35.97%	20.35%	1.77	-9.76%	72%
日興グローイング・ベンチャーファンド	日興	国内株式	40,739	35.89%	20.63%	1.74	-8.25%	69%
小型株ファンド	明治安田	国内株式	30,146	35.33%	21.07%	1.68	-8.77%	69%
SBI小型成長株ファンド(ジェイクル)	SBI	国内株式	28,904	34.78%	20.56%	1.69	-9.62%	69%
新成長株ファンド	明治安田	国内株式	60,955	31.72%	13.13%	2.42	-4.54%	75%
中小型成長株ファンドーネクストジャパン	SBI	国内株式	9,023	31.18%	13.02%	2.40	-4.70%	75%
MHAM新興成長株オープン	AM-One	国内株式	41,624	31.08%	16.25%	1.91	-7.52%	72%
マネックス・日本成長株F	AM-One	国内株式	4,065	29.97%	16.47%	1.82	-7.91%	72%
日興UBS中国A株ファンド	UBS	エマーゼィング株式	6,671	29.45%	30.59%	0.96	-19.20%	58%

(注1) 下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2) 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

ベストテンは、9位までを国内株式型で、成長株(または中小型株)を主要投資対象とするファンドが占めており、直近1年間と同様の傾向となりました。

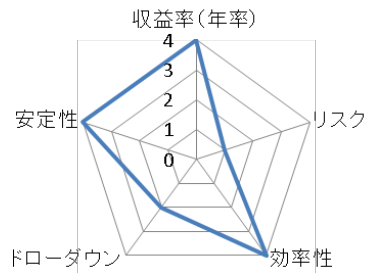
10位には中国株ファンドが食い込みましたが、リスクが高い傾向にある成長株・中小型株に比較してもなおリスクが高く、当然、効率性は見劣りするものとなっています。

2016年度の年間トップだった「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」は2017年度も年間28位と健闘しており、直近3年間では表のとおり1位となっていますが、残念ながら今年5月9日をもって繰上償還することがアナウンスされています。

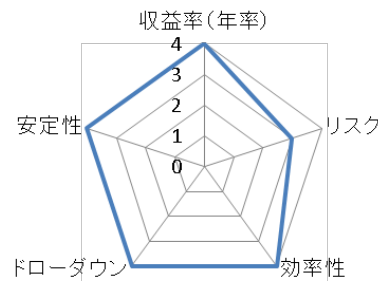
## ■ファンドランキング:中期(直近3年間)(2)

2017年度(直近1年間)と同様、直近3年間についても、レーダーチャートを使ってバランスを見ていきます。国内株式型は中小型株タイプと成長株タイプに分け、中小型株タイプからは「DIAM新興市場日本株ファンド」を、成長株タイプからは「新成長株ファンド」を抽出・比較してみました。中国株ファンドは10位に食い込んだ「日興UBS中国A株ファンド」を掲載しました。

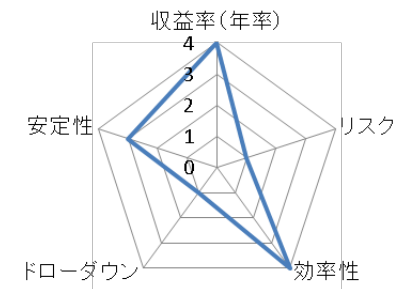
DIAM新興市場日本株ファンド



新成長株ファンド



日興UBS中国A株ファンド



### 【国内株式ファンド】

収益性・安定性は両タイプともに高く、ドローダウン、リスクまで含めた全体のバランスは成長株タイプの方が良好であるという、直近1年間と同様の傾向が確認できました。

### 【中国株式ファンド】

収益率が高いので全体の中では効率性は高い部類に入りますが、ドローダウンが大きく、安定性にも欠けます。ハイリスク・ハイリターンの結果を残した3年間だったと言えるでしょう。

## ■ファンドランキング：長期（直近5年間）

ひとつの投信をどの程度の期間保有するかは、投資家により、投信の商品性格により様々ですが、ここでは、直近5年間での個別ファンドの収益率ベストテンを抽出しました。他の期間と同様に、計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信、マネーファンド等を除いた2,005本で比較しています。

ファンド名	運用会社	カテゴリ	残高 (百万円)	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドローダウン (注1)	安定性 (注2)
DIAM新興市場日本株ファンド	AM-One	国内株式	15,244	38.11%	25.11%	1.52	-11.40%	68%
JPMジャパン・テクノロジー・ファンド	JPモルガン	国内株式	3,169	36.60%	19.96%	1.83	-9.63%	67%
SBI中小型割安成長株ファンド	SBI	国内株式	27,127	32.78%	15.86%	2.07	-9.02%	75%
新成長株ファンド	明治安田	国内株式	60,955	31.71%	14.14%	2.24	-5.18%	75%
MHAM新興成長株オープン	AM-One	国内株式	41,624	31.70%	17.61%	1.80	-7.52%	68%
中小型成長株ファンドーネクストジャパン	SBI	国内株式	9,023	31.66%	14.14%	2.24	-5.40%	75%
日興グローイング・ベンチャーファンド	日興	国内株式	40,739	31.49%	24.43%	1.29	-11.18%	63%
SBI小型成長株ファンド(ジェイクル)	SBI	国内株式	28,904	31.47%	25.43%	1.24	-11.65%	65%
マネックス・日本成長株F	AM-One	国内株式	4,065	30.49%	18.23%	1.67	-7.91%	68%
小型株ファンド	明治安田	国内株式	30,146	29.60%	24.98%	1.19	-11.78%	65%

(注1) 下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2) 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

ベストテンはすべて国内株式型でかつ成長株(または中小型株)を主要投資対象とする同種のファンドとなりました。ベスト20まで拡大しても、エマージング株式1本を除く19本が同種のファンドでした。

収益率・リスクともにファンドごとにある程度の差はありますが、際立った特徴を有するファンドはありません。昨年、同様の分析を行った際にも同じ傾向が見られており、日本の成長株(中小型を含む)投資というコンセプトが、ここ数年間では最も高い収益をあげた、と言えるでしょう。

## ■資産カテゴリ別ランキング(1)

個別ファンドで見るベストテンには、はっきりとしたカテゴリの偏りが見られましたが、個別ファンドだけを見ても市場全体の動きを理解するのは難しいので、ここでは直近5年間についてカテゴリごとの収益率、リスク、効率性、ドロウダウン、安定性について平均値を比較します。他のデータと同じく、計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信、マネーファンド等を除いて比較しています。

カテゴリ	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドロウダウン (注1)	安定性 (注2)
国内株式	14.19%	16.32%	0.89	-10.15%	63.4%
外国株式	8.50%	15.89%	0.57	-10.85%	61.7%
エマージング株式	7.04%	19.54%	0.38	-14.35%	60.2%
複合資産	5.93%	8.34%	0.76	-5.57%	64.6%
グローバルREIT	4.49%	14.35%	0.31	-8.86%	56.3%
ハイイールド債券	3.76%	10.83%	0.41	-7.96%	58.3%
J-REIT	3.64%	14.56%	0.26	-13.60%	52.1%
外国債券	1.77%	8.22%	0.23	-6.08%	55.6%
エマージング債券	1.72%	12.85%	0.16	-9.98%	56.2%
国内債券	1.30%	1.83%	0.70	-1.30%	62.0%
その他	1.29%	12.20%	0.12	-9.26%	53.1%

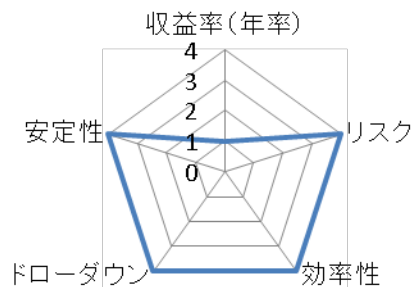
(注1) 下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2) 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

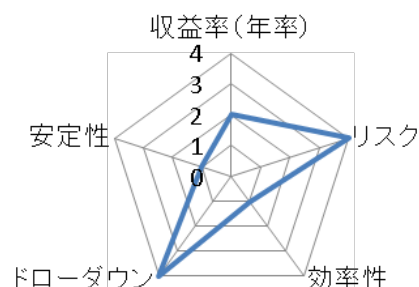


## ■資産カテゴリ別ランキング(2)

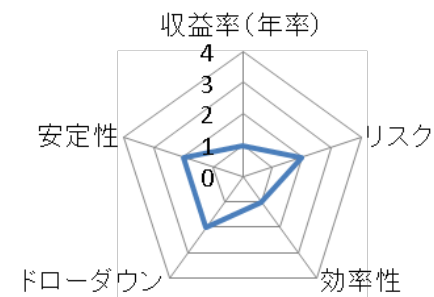
### 国内債券



### 外国債券



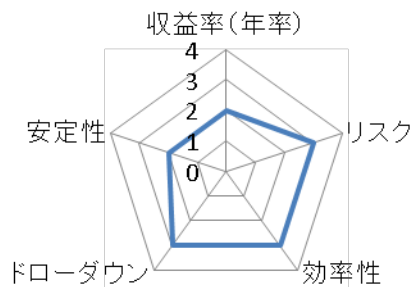
### エマージング債券



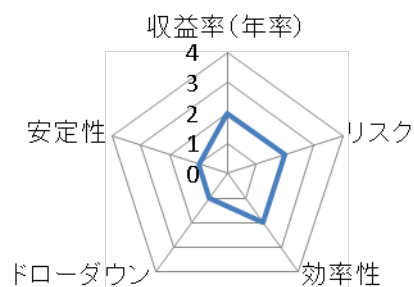
国内債券型は、4項目は良好ですが肝心の収益率が低迷しました。日銀のゼロ金利政策に出口が見えない中で低収益が続いています。外国債券型は、欧州では金融政策の正常化が見え始め、米国では緩やかな利上げが継続する中で、収益性、安定性ともに低迷したものの、大きな価格変動はあまり起こらなかったと言えます。

世界的な低金利の中で、これまでイールドハンティングの対象として選好されてきた、エマージング債券、ハイイールド債券、J-REIT、グローバルREITは、総じて低調な結果となりました。

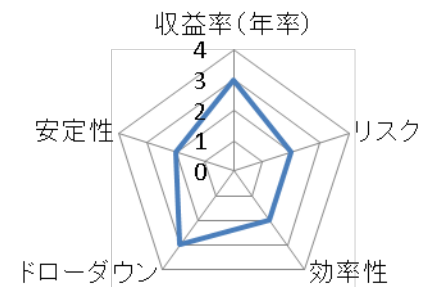
### ハイイールド債券



### J-REIT

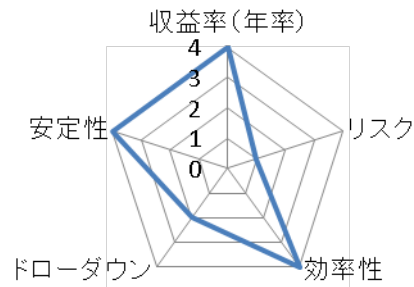


### グローバルREIT

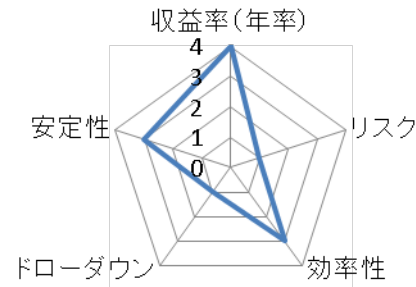


## ■資産カテゴリ別ランキング(3)

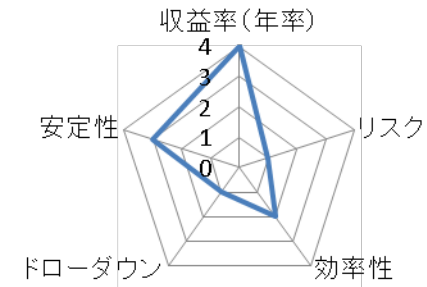
### 国内株式



### 外国株式



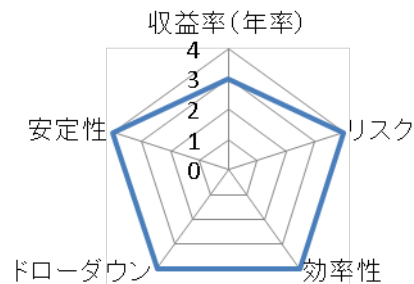
### エマージング株式



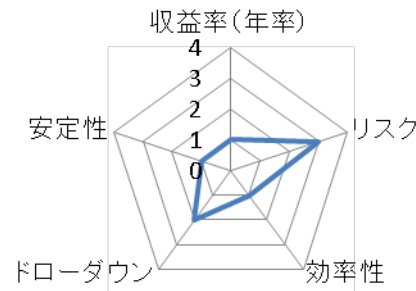
国内株式、外国株式、エマージング株式ともに収益率は高く、安定性も良好だったものの、価格変動性は高く、効率性は資産ごとに差が出ました。

一方、複合資産では、収益率は上位1/4に入らなかったものの、その他のすべての項目が上位1/4に入りました。リスクを分散するという複合資産の強みが発揮された、バランスのとれた結果となりました。「その他」はCBやレバレッジをかけたファンドで、ファンドごとの差が大きく、平均を見ると全項目で低調でした。

### 複合資産



### その他



- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- MAB投信指数「MAB300」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

**【照会先】**

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

標(しめぎ)・勝盛・澤井

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL: 03-6721-1010 FAX: 03-6721-1020

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会